

# 5月24日(日) 松田町水害・土砂災害避難訓練を初実施します

【問い合わせ】総務課安全防災担当室 防災防犯係 ☎(84)5540

近年、台風や前線に伴う豪雨などにより全国各地で土砂災害が多発し、多くの尊い人命が失われています。そうした中、避難の遅れと高齢者などの災害時に援護が必要な方への対応が課題となっています。

そこで、町全域で水害及び土砂災害に対する防災訓練を実施することで、警戒避難体制の整備や住民の防災意識の向上などを図り、「命を守る行動」を身につけることを目的として実施します。

●日時 5月24日(日) 午前9時～11時30分

※雨天の場合、訓練は中止としますが、同報無線でのサイレンの吹鳴及び放送、あんしんメールなどの伝達訓練は実施します

## ●訓練参加者

住民(自主防災会)、神奈川県、町、町消防団

## ●吹鳴時間

午前9時10分、9時30分、9時50分、10時10分、10時30分、10時50分  
※約15秒間サイレンを吹鳴します

## 松田町消防団

町消防団では、4月1日付で分団長の異動があり、新体制となりましたので紹介します。(敬称略 (新)は新任)

団 長	鍵和田 儀一
副 団 長	井上 秀人
第一分団長	小川 勇次(新)
第二分団長	赤坂 雄二
第三分団長	柳町 昌(新)
第四分団長	北村 秀一
第五分団長	熊澤 正仁(新)
第六分団長	川野 哲靖(新)
第七分団長	小宮山 光一(新)
第八分団長	安藤 浩明(新)

【問い合わせ】総務課安全防災担当室 防災防犯係 ☎(84)5540

## ●訓練内容

- (1) 町民の皆さんが実施する情報の収集・確認
  - ① 事前に配布した土砂災害ハザードマップ及び洪水ハザードマップを活用し、土砂災害及び水害危険箇所、避難所・避難経路などの確認を行う。
- (2) 町からの情報の伝達
  - ① 土砂災害警戒情報を発表し、町民へ伝達する。また、土砂災害に係る時間的警戒や切迫度がわかる補足情報も併せて伝達する。
  - ② 河川はん濫情報を発表し、町民へ伝達する。また、土砂災害に係る時間的警戒や切迫度がわかる補足情報を併せて伝達する。
  - ③ 土砂災害避難指示、はん濫危険水位避難指示の解除を伝達する。
- (3) 町からの情報伝達の方法
  - A. 同報無線、イ. フリーダイヤル(防災行政無線が聞き取れなかった場合に放送内容を確認することができず)、ウ. あんしんメール、エ. 消防団による広報(避難勧告・避難指示のみ)、オ. 町ホームページ
- (4) 町職員による避難所の開設
  - ① 松田町民文化センター 展示ホール
  - ② 松田中学校屋内運動場 2階アリーナ
  - ③ 松田小学校屋内運動場
  - ④ 松田幼稚園
  - ⑤ 寄中学校屋内運動場 2階アリーナ
- (5) 避難行動要支援者関連施設及び避難行動要支援者への支援
  - ① 避難行動要支援者関連施設への情報伝達体制を確認する。



落橋した十文字橋(平成19年)



土砂崩れが発生した町道寄11号線(平成22年)

## ご存じですか？ 寄測量検定試験場

寄地区の駐車場や待避所のコンクリート上に、マンホールくらいの白や黄色の円盤を見かけたことはありませんか？これは何かと不思議に思った方も多いはず。これは、対空標識と言います。測量専用の飛行機に積んだ電子カメラの性能や精度を確かめる目的で15年前に設置されたものです。

## 松田町内にゾーン30を設定

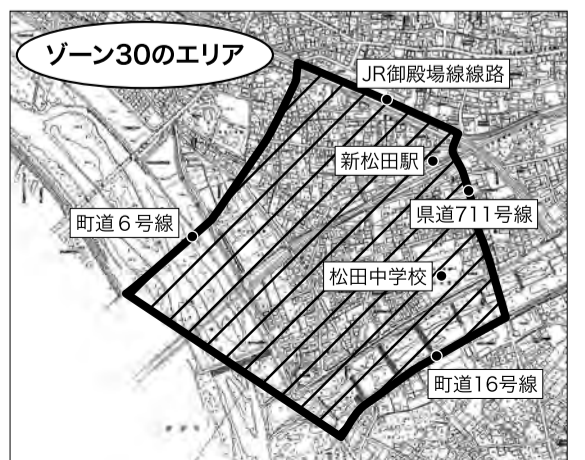
「ゾーン30」とは住宅地帯などをゾーンとして区域設定し、その区域の抜け道利用や自動車の走行速度を抑制することで、歩行者などの安全を確保するものです。

「ゾーン30」として区域設定された住宅地帯などの区域入口においては、その区域の制限速度が時速30キロメートルであることを示す標識が設置され、ゾーン30に設定された区域の入口であることを明確にしています。

【問い合わせ】  
総務課 安全防災担当室  
防災防犯係  
☎(84)5540



ゾーン30の標識



ゾーン30のエリア

3月11日(水)、日本写真測量学会(近津博文会長)から寄小学校と寄中学校に、寄地区がテストフィールド(測量検定試験場)に認定されたことを記念して、航空写真の寄贈がありました。

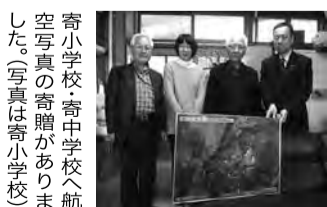
近年、普及が進んでいるデジタルカメラ。携帯電話やスマートフォンなどにも装備されており、皆さんの身近なものとなっています。

現在、デジタルカメラの画素数(写真のきめ細かさ)は1000万画素〜2000万画素くらいが一般的でしょう。ところが最先端のデジタルカメラでは、何百億画素といった高画素数のデジタルカメラもあるようです。

しかし、これらの技術もまだまだ未知数であり、性能や精度を高め、それらをより正確なものにするための継続的な検証が欠かせません。

**日本唯一の測量検定試験場**

検証には、地上に対空標識と呼ばれる直径約60cmの白や黄色の円盤を恒久的に多数設置するテストフィールドが必要となります。そのテストフィールドに寄地区が15年前に選



寄小学校・寄中学校へ航空写真の寄贈がありました。(写真は寄小学校)

寄幼稚園付近の対空標識

定されました。

寄地区は首都圏に近く、標高差が350m以上あり、テストフィールドに適した地形を有しています。こうしたテストフィールドは欧米にしか設置されておらず、寄地区は日本写真測量学会が認定する日本唯一のテストフィールドとなっています。

しかも寄地区は起伏に富み、標高差のあるテストフィールドの設置は、世界的にも類がない場所となっています。

テスト撮影は、カメラを搭載した航空機で約1000mの上空から中津川をさかのぼり行われるそうです。未永く運用するには町民の皆さんの理解と協力が必要です。白や黄色の円盤を見かけましたら大切に扱ってください。